

オープニング映像

◇プロローグ

主な登場人物

ミケランジェロ …芸術家を目指す少年。
蛇／ミカエル …エデンから追放され、ミケランジェロを見守る。中性的。
娼婦の女 …ミケランジェロがモデルとして雇った女

司祭 …若い司祭。芸術家に絵画の依頼をする。

ルシフェル／トニーノ …エデンからいなくなった誰かを追っている。
鳥／ファビオ …エデンに住み着くもの
馬／テオ …エデンに住み着くもの

ジーナ …トニーノの母親
ソラーリ …芸術家だが建築を現在学んでいる最中
精霊 …エデンに住むもの。

ほか、通行人、訪問者。

以下本編

※番号は1コマのイメージ。
あくまでこちらのイメージなので、台詞などを考慮して
自己判断でコマ数を調整していただいて構いません！

1----- 絵本の挿絵のようなイメージ

司祭 主なる神は人を連れて行ってエデンの園に置き、これを耕させ、
これを守らせられた。主なる神はその人に命じて言われた。
「あなたは園のどの木からでも心のままに取って食べてよろしい。
しかし善悪を知る木からは取って食べてはならない。それを取って

食べると、きっと死ぬであろう」。

2――

へびは女に言った、「あなたがたは決して死ぬことはないでしょう。

それを食べると、あなたがたの目が開け、神のように善悪を知る者となることを、神は知っておられるのです」。

3――

女がその木を見ると、それは食べるに良く、目には美しく、賢くなるには好ましいと思われたから、その実を取って食べ、また共にいた夫にも与えたので、彼も食べた。

4――

すると、ふたりの目が開け、自分たちの裸であることがわかったので、いちじくの葉をつづり合わせて、腰に巻いた。

そこで主なる神は女に言われた、「あなたは、なんということをしたのです」。

5――

女は答えた、

「へびがわたしをだましたのです。それでわたしは食べました」。

6――挿絵イメージここで終わり。

主なる神はへびに言われた、「おまえは、この事を、したので、すべての家畜、野のすべての獣のうち、最ものろわれる。おまえは腹で、這いあるき、一生、ちりを食べるであろう。

7――

人間は追放された後のエデン。緑豊かな大地が広がっている。ただ、中央に枯れた大木がぽつんと立っている。鳥と馬がやってくる。

鳥 ピヨピヨピヨと歌いましょうか？どうでしょう？
馬 私の風になびくたてがみは、このエデンの中で一番美しいとは思いませんか？
鳥 くちばしで羽をキレイにしましょうか？どうでしょう？
馬 私の漆黒に光る瞳は、このエデンの中で一番美しいとは思いませんか？

8――

鳥 待て、待て、待て。
馬 なんだ？今、いいところなのに。
鳥 エデンの中で一番美しい方は、「あの時」に消えてしまった。
馬 そう「あの時」に消えてしまった。だから、私が一番美しい者になったのだ。
鳥 お前が？
馬 そう、私が。

9――

鳥 ケケケケと笑いましょうか？どうでしょう！
馬 相変わらず汚く鳴く鳥だ。まったく美しさの欠片もない。
鳥 馬のくせに「美しい」なんてよく言えたものだ。

鳥と馬にらみ合っているところで、ルシフェル（以下、ルシ）を見つける。

10――

ルシ…。
鳥 おや、おや、おや、こんな「壊れたエデン」に、よそ者だ。
馬 眺めていても、その木には何も実らない。
ルシこの善悪を知る木はもう枯れたのか？
鳥 そう、そう、そう「あの時」からしばらくたって急に枯れた。
ルシそうか…この木以外はとくに変わったことはなさそうだな。

11――

鳥 何を！変わった、変わった！変わったことだらけだ！
ルシでは、なぜ、まだここに居座る？
馬 このエデンを壊したのは人間だ！私たちではない。
鳥 そうだ、そうだ。だから神は我々をここから追い出さなかった。

12――

ルシそうか、人間はエデンを追われたか。どこにいる？
馬 そんなことを教えたなら私たちが神に罰せられてしまう。

鳥 そうそうそう、あいつらのせいでここは、ひどいありさまだ。

馬 こうしている間にも私たちは狙われる存在となった！

13――

ルシ狙われる？

馬 そうだ！エデンが壊れたせいで、神は私たちの食べるもの分けられた！

鳥 あるものは草を食べて生きろ～！あるものは肉を食べて生きろ～っと。

ルシお前らは草をたべるものか？

馬 見てわからないか？この美しさは緑の大地に広がる草を食べているからこそだ。

ルシでは、お前らは肉を食べるものに追い回されてるわけか。

鳥 うるさい、うるさい！黙れ！黙れ！

ルシ「生き長らえる」にも苦勞することになったわけだ。面白いな。

14――

馬 貴様に何がわかる！よそ者め！

ルシわからんな。俺は逃げることはしない。俺も肉を食らうものだからな。

二匹…！

馬 ほ、ほら、言わんこっちゃない！

鳥 逃げろ、逃げろ！死ぬぞ、死ぬぞ！

ルシ冗談だ。

二匹…！

15――

鳥 よそ者、名を名乗れ！よそ者、名を名乗れ！

ルシ「壊れた」からこそ、ようやくこの世界に入ることが出来たというのに…。

馬 何をいってるんだ？

ルシいや、「壊した」と言った方がただしいな。……聞きたいことがある。

鳥 聞きたいこと？

16――

ルシここにいたあいつはどこにいった？

馬 あいつ？

鳥 人間は追放された。ここにはいない。

ルシ人間じゃない。人間を見ていたものだ。

馬 …エデンの中で一番美しい方！「あの方」

17――

ルシ そうだ。あいつはエデンからは出ていないはずだ。どこだ。

鳥 枯れた木の根のはるか、はるか、はるか、はるか下の世界…。

ルシ 下の世界？

鳥 人間が作った世界。こことは進む時間が全く違う世界。

ルシ どうしてそんなことに？

18――

馬 そんなの私らが知るわけないだろう。

ルシ 人間の世界は今、どれくらい進んでいる？

鳥 ずーっと、ずーっと、ずーっと、ずーっと進んでる。

ルシ あいつは無事なんだろうな？

19――

馬 そりゃ、無事さ。

ルシ なぜわかる。

鳥 それは、この善悪を知る木の精霊と…。

馬 おい、余計なことをいうな、これ以上話したら、私たちが罰を受ける。

ルシ 精霊がなんだった？

20――

鳥 善悪を知る木。あれは神が愛した禁断の果実を育てる。

ルシ そんなこと知ってる。

馬 あれには誰も触れてはいけない。

ルシ それも知ってる。

鳥 神はエデンの誰よりも、あれを愛している。

ルシ だから、なんだ！ 今、あいつはどこにいるんだ！

21――

―雷がなる―

22――

鳥 ピヤーッ！

馬 逃げろ、嵐がくるぞ！

鳥 お前がおしゃべりだから！

馬 何を、お前こそ！

―ザーッと雨の音―